

## 仙台市立 立町 小学校



平成29年8月25日発行 No.7  
所在地：仙台市青葉区立町8番1号  
TEL：222-4078 FAX：223-3957  
校長：\*\*\*\*\* 児童数：197人  
E-mail: tatimati@sendai-c.ed.jp  
HP: [www.sendai-c.ed.jp/~tatimati/](http://www.sendai-c.ed.jp/~tatimati/)

協働目標：自分の思いを最後まで話すことができる子どもを育てましょう

残暑の候、保護者の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。子供たちは、35日間の長い夏休みを終え、元気に学校に戻ってきました。皆それぞれにたくさんの思い出を胸に、ひと回り大きくなって帰ってきたことがよく分かります。まだまだ暑さが厳しい中、1学期後半が始まりました。

さて、7月19日(水)に開催いたしました「拡大学校関係者評価委員会」につきまして、その概要をまとめましたので、下記のとおりお知らせいたします。ご家庭におかれましては、ぜひご拝読いただき、子供たちの健全育成にご支援を賜りますようお願いいたします。

### 平成29年度 仙台市立立町小学校「拡大学校関係者評価委員会」開催概要 H29.7.19

仙台市立立町小学校

#### 【本会議開催の趣旨について】

いま教育現場において、児童生徒の自死予防・いじめ防止が喫緊の課題となっており、この課題について、各学校において‘いじめ’の未然防止・解決に向けた取組を話し合う場を設定し、地域ぐるみで課題の解決を図っていくため。

#### 【出席者】※敬称略

＜学校評議員＞H・I（学校支援地域本部SV）、T・K（交通指導隊大町分隊長）

＜地域評価委員＞A・K（立町地区町内会連合会長）

＜学校関係者評価委員＞O・T（P会長）、Z・H（P副会長）、W・Y（P副会長）、  
A・M（P副会長）

＜立町マイスクール児童館＞K・S（館長） ＜杜のひろば立町＞W・A（チーフ相談員）

＜立町小学校＞T・Y（校長）、S・T（教頭）、A・H（教務主任）

#### 【いじめの定義について】（いじめ防止推進対策法第2条より）

「当該児童等と一定の人間関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているもの」⇒心身の苦痛（心理的・物理的いずれでも）を感じたら「いじめ」

#### 【学校の実態】☞4件のいじめ事案について概要を報告（※いずれも解消済）

- ・ふざけた感じでランドセルを引っ張られる。嫌だけれど、自分からは言えない。
- ・一緒に帰る時、自分の方を見て笑われる。怒って、ケンカをした。
- ・双六遊びをしている際に、嫌なマスに止まり、それを無理に強要された。
- ・友達に無視される。どうして無視するのかと聞くと、「無視していない」と言う。

#### 【学校が取り組むいじめ防止のための教育活動】※概要を説明

- 1「愛のあいさつ運動」（正門前で、毎月11日前後に担当学年が実施）
- 2「たてわり活動」（年7回、児童会行事として実施）（子供会を基本にグループ編成）
- 3「命を大切に教育（道徳・特活）」※通年で実施 → 公開時期：フリー参観（10/18）
- 4「学校・地域に誇りと自信をもつ活動の推進」※実施済・予定の活動を紹介
  - 開校記念日（立町小OBを招いて集会活動）
  - 「仙台青葉まつり」での“すずめ踊り”参加（3・4年生希望者）
  - 歌を通して、学校や地域を大切にしている心情を醸成（土井晚翠作詞の校歌、等）
  - 地元開催の「七夕花火祭」へのかかわり（合唱団がコンサート等に参加）

#### 【情報交換】※参加者からの情報・意見等を集約

- ・杜のひろばは子供たちの居場所づくりで、昨年度よりも随分と増えてきている。学校の教室がどうしても嫌だという子供たちだが、自分たちを見てもらいたい、聞いてもらいたい、分かってもらいたい子供たちでもある。

- ・子供たちは皆、人それぞれで、自分に合った居場所が見つけれない子もいる。それを支援する手があれば、どんどん入って子供たちを見守り、必要な対応を取っていくことが大切である。
- ・現在、児童館には42名の子供たちが入っている。学校と近い距離にあるので、いろいろと相談しながら子供たちを見守っている。子供たちには、日々様々なぶつかりがあるが、まずは子供同士の解決を期待し、必要に応じて職員が入って事態を收拾している。
- ・ほとんどの子供たちは、自分に構ってほしいという思いがある。また、自分の中に何かとげとげした部分をもっている子が多く、それが時として相手にぶつけられる。
- ・今の子供たちは、自分が落ち着ける場所を求めているが、無理に探そうとせずお互いに自分をさらけ出して、お互いを認め合うことが必要である。
- ・自己肯定感の高い子と低い子がいるが、日常生活の中での満足度が関わってくると思う。
- ・男の子は少し乱暴なじゃれ合いをし、わざと相手を怒らせたりする。女の子は、相手が気にするようなことをこそこそ言って、嫌な思いをさせたりすることがある。学校で、知っている子供たちに会ったときは、最近はどうかとか声をかけて、様子を聞いたりしている。
- ・子供が家に帰ってくると、学校で少しもめたことがあったりしたときは、話をよく聞いて受け止めている。大したことではない話も聞いてあげる。あまり子供の話を聞いてあげたり、受け止めてあげたりしない家庭は、その点大丈夫なのだろうか心配に思うこともある。
- ・家庭で子供たちの声をしっかり聞き、変化に気づき、受け止め、子供たちを支援していくことが必要だ。しかし、そのような時間がなかなか取れない家庭もある。
- ・子供は、大人が思っている以上に残酷な面がある。さわやか相談員として学校にかかわっていた頃、昼休みに巡回していて、何も言えない弱い子を集団で囲んでいる場面に出くわしたことがあった。担任や他の目が行き届かない時間や場所での子供たちの様子を見守りも必要かと思う。
- ・学校は、放課後の廊下やトイレ、下駄箱などの見回りで子供たちの様子を探ることも必要である。その場の様子で、今の子供たちの学校生活の内面が見えてくることもある。
- ・今度、亀岡地区が防犯交通安全モデル地区に指定され、大町地区も一緒にその活動をしていくことになった。様々な活動の機会の中で、子供たちを見守り、健全な学校生活を送れるように支援していくことが大切だと考えている。
- ・社会は、何かがあると騒ぎ立てて事が大きくなるが、これまで何もしてこなかったわけではない。多くの方は、これまでの様々な取組みに賛同し、支援してきている。学校の教職員は、これまで取り組んできた自分の仕事に自信と責任を持ち、これからもしっかりと頑張ってもらいたい。

**【今後の取り組みについて】** ※今回出された意見等を、大きく取りまとめて4点に集約

#### その1 「親子の会話の機会を多くもつ」

- ・家庭で子供の声に耳を傾け、あるいは問いかけたりして、学校の様子を聞いたり、友達とのかかわりや学級の様子などを把握したりする。



#### その2 「PTAから家庭へ発信する」

- ・学校だけではなく、PTAからも、親子の会話の機会をできるだけ多くもつことを家庭に働きかけていく。また、そのような時間がなかなか取れない家庭については、他校区の実践事例などを参考に、できそうなものをどんどん取り入れ、働きかけていく。

#### その3 「子供たちの生活の様子を注意深く見回る」

- ・学校は常にアンテナを高くして、子供たちの生活の様子や友達との関わりに目を配り、いち早くその変化に気づき、家庭と連携を図りながら事態を悪化させないように努めていく。

#### その4 「地域をあげて子供たちを見守る」

- ・地域の様々な行事や活動を通して、子供たちとできるだけ多くかかわり、挨拶や会話をしたりして、地域の一員としての意識を育て、健全な学校生活を送れるよう温かく見守っていく。